

嘔吐・下痢

おう と

まず疑うのは…

発熱、嘔吐、下痢症状が揃えば、**ウイルス性胃腸炎**の可能性が高いです。突然の嘔吐症状からはじまり、続いて下痢症状、時に発熱がみられます。ウイルス感染がほとんどで、自分の免疫で治すため治療は対症療法が中心です。



ウイルス性胃腸炎の原因となるウイルスは？

ロタウイルス、ノロウイルス、アデノウイルスが小児期で主なウイルスとなります。ロタウイルスは嘔吐症状が強く、白っぽい便が出るのが特徴です。また合併症として **けいれん** を起こすこともあります。

ウイルス性胃腸炎とは

嘔吐や発熱ではじまります。嘔吐は1～3日続き、遅れて下痢が3～7日ほど続きます。原因の多くはウイルスで、ウイルス性胃腸炎といいます。原因としてはノロウイルスやロタウイルスが多いです。



治療は？

脱水の程度が軽く、合併症がなければORSなどの経口補水液などで治療します。嘔吐が落ち着き、食べられるようになれば食事を開始します。病院では下痢の期間を短縮させるため整腸剤を処方することが多いです。吐き気止めも時に処方しますが、副作用があるため注意して使用します。下痢止めは小児では腸閉そくの原因となりうるため使いません。



ロタウイルス性胃腸炎

〇〇は予防接種あり!!

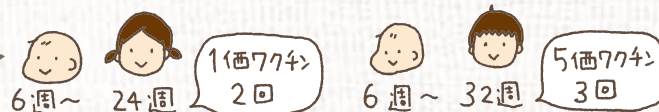


11月頃から増加し、3～5月に特に流行します。抗ウイルス薬など特別な治療法はありませんが、日本では2011年末からワクチンが開始され、2020年から定期接種となった**有効なワクチン**があります。入院患者の数が大きく減ってきており非常に有効なワクチンですが、接種時期によって腸重積のリスクの可能性が指摘されているため、接種時期が決められています。

ロタウイルスはけいれんを走らすことがあります



詳しくは「ロタウイルス感染症」をご覧ください



症状	嘔吐・下痢 (白っぽい便)	潜伏期間	1～3日	治るまで	約1週間
----	---------------	------	------	------	------

ノロウイルス性胃腸炎



11月～3月にかけて流行します。重症になる患者の割合はロタウイルスより少ないですが、**頻度は最も多い胃腸炎**です。また乾燥した吐物から空中に舞ったウイルスを吸い込んで感染することもあります。熱は出ないか、出ても軽い場合が多いです。**症状がなくなった後も3～7日**くらい、長い場合は1ヶ月ほど便にウイルスが排出されます。感染しても免疫ができないので、**何度もかかる可能性**があります。抗ウイルス薬やワクチンはありません。

症状	嘔吐・下痢	潜伏期間	1～3日	治るまで	約1週間
----	-------	------	------	------	------